



立ち会い分娩を希望されるご家族へ



2023年5月8日のCOVID-19の感染症法の5類移行を受け、産科では、(1)立ち会い分娩の再開、(2)入院患者への面会制限の緩和、(3)外来受診時の付き添い条件の緩和、を実施させていただくこととなりました。

特に立ち会い分娩に関しましては、皆さまから大変多くのご要望をいただくなかで、その制限にご理解・ご協力くださいましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

分娩期のご家族の立ち会いは、お産に関する厚生労働省ガイドラインやWHO 59ヶ条のなかで、分娩所要時間の短縮、帝王切開分娩や吸引鉗子分娩の減少、使用薬剤の減少、分娩時の満足度上昇、新生児アプガースコア 7点未満の減少などの効果があるとされており、医学的観点に立てば、本来推奨されてしかるべきものです。

この数年間でCOVID-19に関する多くの医学的知見が得られたこともあり、今後は従来通り、分娩期における立ち会い分娩のメリットを優先させる時期にきたと考えております。しかし、行政対策上の5類移行=感染対策の簡略化では決してありません。COVID-19であれ季節性インフルエンザであれ、妊産婦が感染ハイリスク者たりうること、分娩時のエアロゾルが感染拡大の契機になりやすいことは、何ら変わりのない事実です。ましてや、当院は小児専門病院として、新生児未熟児病棟をはじめ、多くの免疫不全患者が入院されておりますので、院内感染やクラスターの発生は即座に病院機能の停止につながってしまいます。

立ち会われるご家族、面会に来られるご家族、外来受診に付き添われるご家族の方々には、その点を引き続きご理解いただき、十分な感染対策にご協力くださいますようお願い申し上げます。

【立ち会いしていただけるご家族について】

以下のすべての項目に該当する 1名の方 をお願いいたします。

- ◇ ご主人(パートナー)もしくはご両親のいずれか ※日毎・時間毎に交代されることはご遠慮ください
- ◇ 10日間以内の感染症状(37.5℃以上の発熱・せき・鼻水・のどの痛み・関節痛・嘔吐・下痢など)がない
- ◇ 10日間以内に感染症の病気の人と接触したことがない
- ◇ 不織布マスクの着用、手指消毒・手洗いなどの感染対策ができる

【立ち会いの流れ】

病院1階受付で面会手続き(体温測定と面会者記入表への記載)をしてください。

(夜間休日は時間外受付)



産科病棟入口のインターフォンを押して患者名とそのご家族であることをお伝えください。

スタッフが口頭で体調を確認させていただき、病室までご案内します。アルコール消毒にご協力ください。



立ち会いご家族用チェックリストの記入にご協力ください。

分娩後は1時間程度を目途にご帰宅いただきますようお願いいたします。

(赤ちゃんが小児科に入院される場合は、この限りではございません)

【立ち会い中の過ごし方】

- ◇ 常時不織布マスクの着用をお願いいたします。
- ◇ お食事される時以外は、陣痛室または病室内でお過ごしください。
- ◇ 陣痛室あるいは病室内での食事はお控えください。お食事をされる場合は、3 階の食堂や自家用車内をご利用ください。
- ◇ トイレは陣痛室または病室内に設置されているものをご使用ください。
- ◇ 患者用ベッドや病室内シャワーのご利用はお控えください。
- ◇ 診察や処置の際にはいったんご退出いただくこともございます。ご理解くださいますようお願い申し上げます。
- ◇ 分娩中は羊水や血液のにおいで気分が悪くなられる方もおられます。気分不良となった場合は、我慢し過ぎずに早めにお申し出ください。

【写真や動画の撮影について】

- ◇ 三脚のご使用はお控えください。
- ◇ 分娩台（妊婦さん）の頭側からご撮影ください。妊婦さんの下半身が写らないような配慮をお願いいたします。
- ◇ 病院スタッフは母子の対応優先のため、撮影してさしあげることではできませんので、何卒ご理解ください。
- ◇ 医療記録物や病院スタッフの顔・名札など、個人情報の特定につながる情報は写らないようご配慮ください。
- ◇ 小児科医が赤ちゃんの診察や処置を行っている際に、赤ちゃんを撮影しようとする、その妨げになってしまうこともございますので、小児科医の診察や処置が終わった後に撮影していただきますようお願い申し上げます。

お産の進み方はひとそれぞれですし、まる一日あるいは二日がかかりという長丁場になることもございます。妊婦さんはもちろんのこと、立ち会いされるご家族の方にもリラックスしていただける環境を提供できるよう努めさせていただきますが、なにぶん施設が古く、休憩していただける場所も十分にございませんので、状況によってはご家族の方にいったん帰宅されることをお勧めする場合もございます。

妊婦さんは痛みを耐えながらお産を乗り越えようと必死に頑張っておられます。立ち会いされるご家族の方は、我々医療スタッフとともにそばにいてサポートしてあげて欲しいと思います。何かわからないことやご要望がございましたら、遠慮なく気軽にご相談ください。



2023年6月5日

群馬県立小児医療センター産科 科長 京谷琢治

師長 福島富美子

